

平成 30 年住宅・土地統計調査試験調査の結果概要

1 調査票の回答状況

(1) 回収方法別の提出状況

調査対象世帯数(調査対象総数から居住世帯のない住宅を除いた数)は 1,232 世帯であり、回収方法別の結果をみると、オンライン回答は 315 世帯 (25.6%)、郵送提出は 500 世帯 (40.6%)、調査員回収は 143 世帯 (11.6%) であった。

オンライン回答用書類と紙の調査票を同時に配布した平成 25 年本調査におけるオンライン回答率は 7.9%、一方、二段階配布方式を採用した今回の試験調査では 25.6%となった。オンライン回答率が最も高いのは、神奈川県横浜市で 48.1%、最も低い鹿児島県肝付町でも 10.5%であった。

また、郵送提出は全体の 4 割を占める 40.6%となった。市町別にみても、オンライン回答が 5 割近い神奈川県横浜市、調査員回収が 6 割を超えた鹿児島県肝付町を除き、8 市町において、郵送提出での回答が一番多い結果となった。

表 1 回収方法別世帯数及び割合

府県・市町	調査対象 総数	実数			構成比(%)			聞き取り 調査数	調査票 未作成数
		オンライン	郵送	調査員	オンライン	郵送	調査員		
計	1,232	315	500	143	25.6	40.6	11.6	218	56
神奈川県横浜市	129	62	28	1	48.1	21.7	0.8	38	0
神奈川県川崎市	127	32	42	9	25.2	33.1	7.1	43	1
新潟県新潟市	108	28	45	7	25.9	41.7	6.5	28	0
新潟県上越市	133	29	82	0	21.8	61.7	0.0	22	0
大阪府大阪市	133	34	44	2	25.6	33.1	1.5	53	0
大阪府熊取町	137	37	68	12	27.0	49.6	8.8	20	0
山口県山口市	116	29	40	16	25.0	34.5	13.8	0	31
山口県下関市	114	25	56	2	21.9	49.1	1.8	9	22
鹿児島県姶良市	121	27	70	23	22.3	57.9	19.0	1	0
鹿児島県肝付町	114	12	25	71	10.5	21.9	62.3	4	1

(2) 地域特性別の回答状況

地域特性別にオンライン回答率をみると、どの地域特性においても前回調査の 7.9% を大きく上回り、30%に近い地域特性もある。最も低い「面積が広い調査区」でも前回の 2 倍となる 17.5%の回答率であった。

また、地域特性別の郵送提出回答率をみると、ほとんどの地域特性において、4 割から 5 割近くの回答状況となっている。一方、「面積の広い調査区」においては、2 割程度と他の地域特性に比較して、半分程度の回答率となった。

なお、今回は試験調査であり報告の義務はないため、参考数値となるが、調査票未回収世帯率をみると、「オートロックマンション・ワンルームマンションのある調査区」が 38.1%、次いで「共同住宅で高齢者の居住する割合が高い調査区」が 24.8%となっており、他の地域特性を大きく上回る状況となった。

表2 地域特性、回収方法別の割合

(%)

地域特性	オンライン	郵送	調査員	未回収
1 空き家の所有が多い可能性が高い調査区	28.6	45.4	10.0	15.9
2 一戸建の多い調査区	24.2	45.0	16.1	14.8
3 共同住宅で高齢者の居住する割合が高い調査区	26.5	37.2	11.5	24.8
4 共同住宅でオートロックマンション・ワンルームマンションのある調査区	22.9	36.2	2.9	38.1
5 面積の広い調査区	17.5	22.2	44.4	14.3

## 2 調査票の記入状況

### (1) 新規調査事項の記入状況

今回の試験調査で追加した現住居以外に所有する「その他空き家」の質に関する4つの調査項目の記入状況をみると、記入漏れ率が一番高いのは「所在地」の15%、続いて「取得方法」及び「居住世帯のない期間」が10%、次いで「建て方」及び「建築の時期」が5%であった。

また、現住居の敷地以外に所有する農地、山林の記入漏れ率をみると、農地の「所在地」が13.0%、「面積の合計」が6.5%、山林の「所在地」が3.7%、「面積の合計」が14.8%という状況であった。

表3 新規調査事項の記入状況

	対象数	漏れ数	漏れ率%
居住世帯のない住宅「その他」の所有状況			
所在地	20	3	15.0
建て方	20	1	5.0
取得方法	20	2	10.0
建築の時期	20	1	5.0
居住世帯のない期間	20	2	10.0
現住居の敷地以外に所有する農地			
所在地	46	6	13.0
面積の合計	46	3	6.5
現住居の敷地以外に所有する山林			
所在地	27	1	3.7
面積の合計	27	4	14.8

### (2) 回収方法別の記入状況

今回の試験調査で導入した郵送提出と従来の調査員回収での記入漏れ率をみると、「勤めか自営かなどの別」は調査員回収が低く、「現住居の床面積」は郵送提出のほうが低い結果となった。その他の項目は、記入漏れ率がほぼ同等となっている。

表4 回収方法別の記入状況

調査項目	郵送			調査員		
	対象数	漏れ数	漏れ率%	対象数	漏れ数	漏れ率%
世帯全員の1年間の収入	500	12	2.4	143	4	2.8
勤めか自営かなどの別	500	35	7.0	143	4	2.8
現住居への入居時期	500	26	5.2	143	8	5.6
現住居への居住室(畳数)	500	83	16.6	143	24	16.8
現住居の床面積	497	99	19.9	140	34	24.3
現住居以外の住宅の所有有無	500	55	11.0	143	19	13.3

# 平成30年住宅・土地統計調査試験調査 アンケート集計結果

## I 世帯アンケート集計結果

### 1 世帯アンケート集計結果 回答者属性

世帯アンケート回答数は402件で、紙の調査票で回答した世帯数（862件）に占めるアンケート回答率は46.6%となっている。

回答者の属性を男女別にみると、男性が55.0%、女性が39.1%になっている。年齢階級別にみると、「70歳以上」が34.1%、「60～69歳」が25.4%などとなっている。

図1 回答者属性（男女）

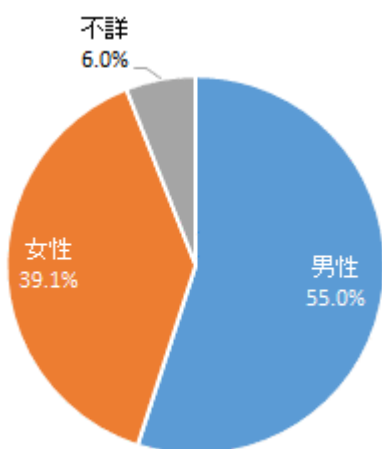
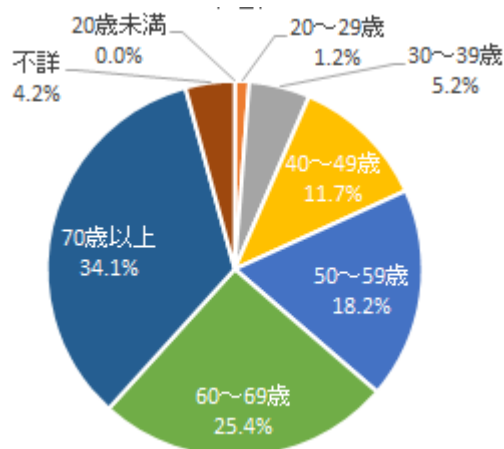


図2 回答者属性（年齢）



## 2 アンケート結果

### (1) 「6 現住居への入居時期」について

紙の調査票の回答に際し、「6 現住居への入居時期」については、63.4%が記入しやすいと回答している。

記入しにくいのが10.9%となったが、その理由としては、「入居時期を覚えていない」が55.0%と最も多くなっている。

表1 「6 現住居への入居時期」に係る回答数及び割合

	回答数	割合
記入しやすい	255	63.4%
記入しにくい	44	10.9%
どちらでもない	78	19.4%
不詳	25	6.2%
計	402	100.0%



記入しにくい理由	回答数	割合
① 入居時期を覚えていない	22	55.0%
② 引越しをしたことがないためわからない	4	10.0%
③ その他	14	35.0%
計	40	100.0%

(2) 「8 建物の構造」について

紙の調査票の回答に際し、「8 建物の構造」については、59.7%が記入しやすいと回答している。

記入しにくいのが16.7%となったが、その理由としては、「選択肢がわかりづらい」が49.2%と最も多くなっている。

表2 「8 建物の構造」に係る回答数及び割合

	回答数	割合		記入しにくい理由	回答数	割合
記入しやすい	240	59.7%	→	① 自宅の構造がわからない	26	41.3%
記入しにくい	67	16.7%		② 選択肢がわかりづらい	31	49.2%
どちらでもない	62	15.4%		③ その他	6	9.5%
不詳	33	8.2%		計	63	100.0%
計	402	100.0%				

(3) 「9 居住室」、「13 床面積」について

紙の調査票の回答に際し、「9 居住室」については52.5%、「13 床面積」については42.3%が記入しやすいと回答している。

記入しにくいについては、「9 居住室」が25.9%、「13 床面積」が34.8%となったが、その理由としては、それぞれ「居住室の面積がわからない」、「床面積がわからない」が最も多くなっている。

表3 「9 居住室」に係る回答数及び割合

	回答数	割合		記入しにくい理由	回答数	割合
記入しやすい	211	52.5%	→	① 居住室の範囲がわからない	20	15.4%
記入しにくい	104	25.9%		② 居住室の面積がわからない	71	54.6%
どちらでもない	58	14.4%		③ 調査事項「13 床面積」との区別がつかない	26	20.0%
不詳	29	7.2%		④ その他	13	10.0%
計	402	100.0%		計	130	100.0%

表4 「13 床面積」に係る回答数及び割合

	回答数	割合		記入しにくい理由	回答数	割合
記入しやすい	170	42.3%	→	① 床面積の範囲がわからない	41	25.8%
記入しにくい	140	34.8%		② 床面積がわからない	81	50.9%
どちらでもない	61	15.2%		③ 調査事項「9 居住室」との区別がつかない	19	11.9%
不詳	31	7.7%		④ その他	18	11.3%
計	402	100.0%		計	159	100.0%

(4) 「26 現住居以外の住宅」について

紙の調査票の回答に際し、「26 現住居以外の住宅」については、40.8%が記入しやすいと回答している。

記入しにくいのが7.5%となったが、記入しにくい理由としては、「選択肢がわかりづらい」が50.0%と最も多くなっている。

表5 「26 現住居以外の住宅」に係る回答数及び割合

	回答数	割合		記入しにくい理由	回答数	割合
記入しやすい	164	40.8%	➔	① 選択肢がわかりづらい	15	50.0%
記入しにくい	30	7.5%		② 持ち分がわからない	11	36.7%
どちらでもない	65	16.2%		③ その他	4	13.3%
不詳	143	35.6%		計	30	100.0%
計	402	100.0%				

(5) 「VI 居住世帯のない住宅の所有状況」について

紙の調査票の回答に際し、「VI 居住世帯のない住宅の所有状況」については、32.6%がわかりやすいと回答している。

表6 「VI 居住世帯のない住宅の所有状況」に係る回答数及び割合

	回答数	割合
わかりやすい	131	32.6%
わかりにくい	67	16.7%
その他	9	2.2%
不詳	195	48.5%
計	402	100.0%

(6) 世帯からの主な意見・提案・要望

世帯からの主な意見・提案・要望は以下のとおり。

	主な意見・提案・要望
6 現住居への入居時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・途中住んでいない期間がある。</li> <li>・先祖からの家でよくわからない。</li> </ul>
8 建物の構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詳しい資料が手元にない。</li> </ul>
9 居住室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板間（床）もあるので、幾畳の広さか、はっきりしない。</li> <li>・分かる資料が見つからない。</li> <li>・フローリングのため畳数が分からない。</li> <li>・クローゼットは居住室に入るのか分からない。</li> </ul>
13 床面積	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図面がなくて計算できない。</li> <li>・固定資産税の計算根拠を見て参考にした。</li> <li>・本間、江戸間、京間でちがうのでよくわからない。</li> <li>・契約書を調べるなど手間がかかる。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットで回答したにもかかわらず調査票が送られてきた。何度も同じことをしないといけないので、改善してほしい。</li> <li>・スマホ、タブレット対応をご検討いただきたい。</li> <li>・家屋・土地の平米の回答の際、書類を探すのに時間がかかりインターネット回答が送信できなかった為、同じ作業を2度行った。回答に必要な書類を、一言記載があればとも思った。</li> <li>・調査の目的、集計結果の開示・活用の意図がはっきりしない。</li> </ul>

## II 電子調査票アンケート集計結果

### 1 電子調査票アンケート回答数、回答者属性

アンケート回答数は306件で、インターネット回答数（315件）に占めるアンケート回答率は97.1%となっている。

回答者の属性を男女別にみると、男性が76.8%、女性が22.2%になっている。年齢階級別にみると、「50～59歳」が24.8%、「60～69歳」が22.2%などとなっている。

図3 回答者属性（男女）

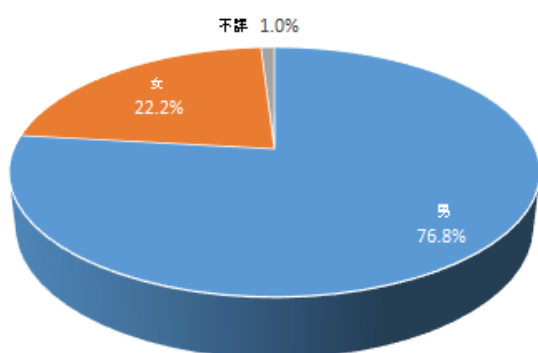


図4 回答者属性（年齢階級）

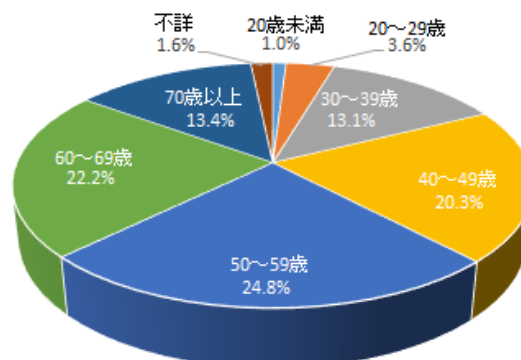


表7 男女、年齢階級別回答者数及び割合

	実数				構成比1(%)				構成比2(%)			
	総数	男	女	不詳	総数	男	女	不詳	総数	男	女	不詳
総数	306	235	68	3	100	76.8	22.2	1.0	100	100	100	100
20歳未満	3	2	1	0	100	66.7	33.3	0.0	1.0	0.9	1.5	0.0
20～29歳	11	7	4	0	100	63.6	36.4	0.0	3.6	3.0	5.9	0.0
30～39歳	40	27	13	0	100	67.5	32.5	0.0	13.1	11.5	19.1	0.0
40～49歳	62	48	14	0	100	77.4	22.6	0.0	20.3	20.4	20.6	0.0
50～59歳	76	62	14	0	100	81.6	18.4	0.0	24.8	26.4	20.6	0.0
60～69歳	68	54	13	1	100	79.4	19.1	1.5	22.2	23.0	19.1	33.3
70歳以上	41	32	8	1	100	78.0	19.5	2.4	13.4	13.6	11.8	33.3
不詳	5	3	1	1	100	60.0	20.0	20.0	1.6	1.3	1.5	33.3

## 2 アンケート結果

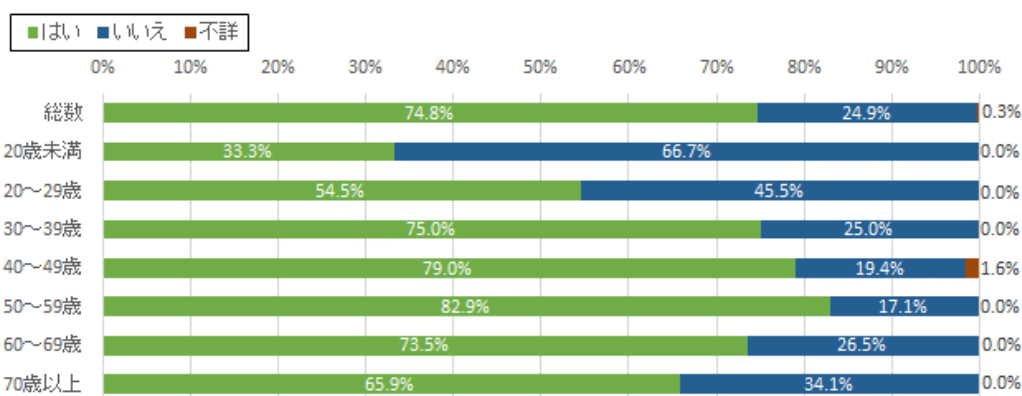
### (1) 操作はしやすかったか【問1】

インターネット回答に際し、電子調査票の操作がしやすかったかについては、「はい」（しやすかった）が74.8%となっている。

これを年齢階級別にみると、「50～59歳」が82.9%と最も高く、次いで「40～49歳」が79.0%となっている。なお、「70歳以上」においても7割近く（65.9%）が操作しやすかったと回答している。

一方で、「20歳未満」の66.7%が「いいえ」（しやすくなかった）としている。

図5 年齢階級別「操作がしやすかったか」回答者の割合



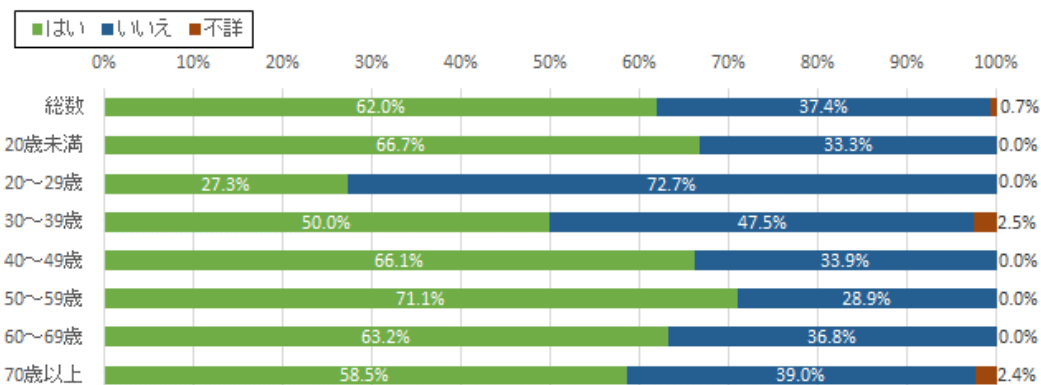
### (2) 内容は理解しやすかったか【問2】

インターネット回答に際し、調査事項の内容が理解しやすかったかについては、「はい」（しやすかった）が62.0%となっている。

これを年齢階級別にみると、「50～59歳」が71.1%と最も高く、次いで「20歳未満」が66.7%となっている。なお、「70歳以上」においても6割近く（58.5%）が理解しやすかったと回答している。

一方で、「20～29歳」の72.7%が「いいえ」（しやすくなかった）としている。

図6 年齢階級別「内容が理解しやすかったか」回答者の割合



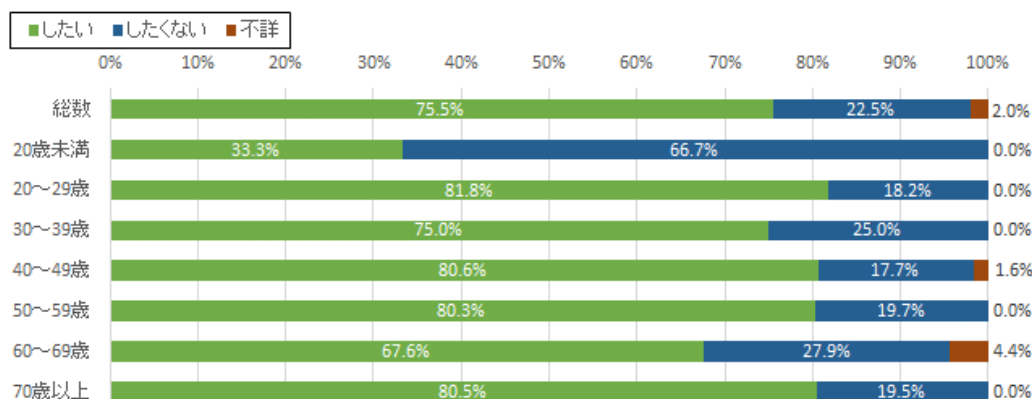
### (3) 今後、インターネットで回答したいか【問3】

今後の統計調査において、インターネット回答を利用したいかをみると、「したい」が75.5%となっている。

年齢階級別にみると、「20～29歳」が81.8%と最も高く、次いで「40～49歳」が80.6%となっている。なお、「70歳以上」においても8割以上（80.5%）がインターネットで回答したいと回答している。

一方で、「20歳未満」の66.7%が「したくない」としている。

図7 年齢階級別「今後インターネットで回答したいか」回答者の割合



### (4) 世帯からの主な意見・提案・要望

世帯からの主な意見・提案・要望は91件あり、主な内容は以下のとおり。

	内容
調査事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>敷地面積、占有面積等は一般の人にはわからない。設問ごとに書類を確認するのは非常に手間がかかる。</li> <li>前住居の平米数ははっきりとは覚えていない。</li> </ul>
要望	<p>(調査の目的・利活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査目的を丁寧に説明すべき。</li> <li>調査結果がどのように利用されるのかなどについてがわかりづらい。</li> </ul> <p>(回答に必要な書類の周知)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>あらかじめ登記簿（契約書）の準備が必要との記述がほしい。</li> <li>回答するにあたって図面や書類を見ないと分からないので、入力に手間がかかりタイムアウトになってしまった。</li> </ul> <p>(政府統計共同利用システムへのログイン)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査対象者IDや確認コードの大文字・小文字の区別がわかりづらい。</li> <li>調査単位区番号、建物番号、住宅番号がどこに記載されているかわからなかった。</li> </ul>
感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で入力するような面倒な調査事項が少ないので、選択するだけで簡単に回答できた。</li> <li>回答の入力に際し、特段、悩んだり困ったりすることがなく、スムーズに回答できた。思ったより短時間で終了できた。</li> </ul>